

【総務・経理 関係】

担当 横内 坂本 塚原  
電話 055-262-4422

### 常任理事会が開催されました

標記理事会が次により開催され、その概要は次のとおりです。

◇日 時 平成18年2月8日（水）13：00～15：00

◇場 所 振興会 会議室

◇協議事項

1) 各委員会報告事項について

（総務、業務、経営、教育の各委員会審議事項の中間報告）

2) 政治連盟総会及び講演会、懇話会提出議題について

（日程、進行、提出議案、要望書等の確認）

3) その他

・今後の会議予定を確認

### 総務委員会が開催されました

標記委員会が次により開催され、その概要は次のとおりです。

◇日 時 平成18年2月8日（水）15：30～17：00

◇場 所 振興会 会議室

◇出席者 水野委員長、細田副委員長、羽中田委員、飯室委員、大木委員、佐藤委員  
水口委員、渡辺委員

◇協議事項

（1）各規約の答申事項の確認について

1) 委員会規約、青年部規約、総会運営内規

（委員会案の最終見直し、顧問弁護士の監修を経た上の答申。）

2) 各支部青年部設立の準備状況について

「2月支部長会議時点における各支部の設立進捗状況の中間報告を頂きこれを基に、各支部例会においてより積極的に展開されるための参考資料を作成することとした。（青年部設立主旨及び再編成への具体的スケジュール案を作成。）」

（2）その他

なし

### 第26回自動車整備政治連盟総会・講演会・懇話会が開催されました

標記総会等が下記により開催され、その概要は次のとおりです。

◇日 時 平成18年2月18日（土）

◇場 所 湯村常磐ホテル

◇出席者 役員並びに政治連盟代議員 約60名

## 《第26回自動車整備政治連盟総会》

◇開催時間 14:00~

◇議事

- 1) 第1号議案 平成17年度活動報告並びに収支決算報告（案）の承認について
- 2) 第2号議案 平成18年度活動計画並びに収支計画（案）の承認について
- 3) 第3号議案 自動車整備議員連盟への推薦等について
- 4) 第4号議案 その他

上記については、総会議案、資料に基づき各項目ごとに説明が行われ、原案通り承認可決された。

なお、当連盟の行動指針等の基本姿勢に基づき、現政権与党である自由民主党の自動車整備議員連盟を中心に政治活動を展開することについて承認可決されたことから、山梨県選出の自民党衆議院議員3氏（赤池、長崎、小野氏）を自動車整備議員連盟へ推薦することも承認可決された。

## 《政治連盟講演会》

◇開催時間 15:30~

◇講演内容 「後継首相の条件は～小泉政治の呪縛」

◇講師 共同通信社政治部次長 尾崎徳隆氏

## 《政治連盟懇話会》

◇開催時間 17:00~

◇出席来賓 衆議院議員 赤池誠章 氏  
衆議院議員 長崎幸太郎 氏

参議院議員中島真人事務所 事務局長 中澤 康 氏

◇懇話内容

- 1) 開会のことば
- 2) 会長あいさつ
- 3) 業界要望書手交
- 4) 要望内容の説明《要望書概要》

平成7年以降の各種規制緩和施策の実施により自動車の保守管理は使用者の自己責任に委ねられているが、安全確保、公害防止に不可欠な定期点検整備の実施率は甚だ低く、一部法制度の改正による未整備車両の増加がこれに拍車を掛けており、車の安全と安心に悪影響を及ぼしている。

また、本年6月1日から改正道路交通法が施行され、放置車両の駐車違反金未納に対する車検拒否制度が新たにスタートすることとなり、整備事業者は車検依頼のある全入庫車両について、違反金未納の有無の確認作業による経済的負担は莫大なものとなることが予測される。

については、道路交通の安全確保、地球環境の保全並びに整備事業者の事業環境激変緩和のため、次の事項について要望する。

1. 自動車使用者に対する点検・整備の促進に関し、国の対策強化を図られたい。
2. 車検代行業者の行う無認証行為への監督・指導強化を図られたい。

3. 駐車違反金未納車両の車検拒否制度施行に伴う整備事業者の負担軽減を図られたい。
4. 自動車保有関係手続きのワンストップサービス（OSS）開始に伴い、私共、自動車整備振興会を総務省令で定める電子申請による登録申請業務取扱者として認められるようご検討願いたい。
- 5) 来賓あいさつ
- 6) 乾杯（懇談）
- 7) 閉会のことば



### セーフティードライブ・チャレンジ200表彰式が開催されました

平成17年度「セーフティードライブ・チャレンジ200」の表彰式、及び抽選会が開催され、概要は次の通りでした。

1. 日 時 平成18年2月24日（金）13:30～
2. 場 所 小瀬スポーツ公園武道館アリーナ
3. 参加状況及び達成状況
  - [全 体]
    - 参加チーム数 5,602チーム（28,010人）
    - 達成チーム数 3,941チーム 達成率 70.3%
  - [振興会]
    - 参加チーム数 91チーム（455人）

達成チーム数 55チーム 達成率 60.4%

#### 4. チャレンジ作戦の効果

昨年下半期（7月～12月）における県下ドライバーの交通事故件数が、1,000人当たり6.6件であったのに対し、チャレンジ参加者は、3.5件、県下ドライバーの交通違反件数が1,000人当たり93.5件であったのに対し、チャレンジ参加者は74.1件と事故率・違反率とも、チャレンジ参加者の方が低い結果となりました。

これは数字を通して目に見えるチャレンジ作戦の効果と認められ、チームの一員として無事故・無違反を達成しようとする意識が、交通事故の主要因となる不注意（ヒューマンエラー）を防止していると考えられます。